

五中だより



第10号

令和7年12月19日

文責：教頭 今井 拓也

学校教育目／標人間性豊かで、主体的に問題を解決する生徒
基本目標／①心の豊かな生徒 ②自ら考え、実践する生徒
③健康で、たくましい生徒
生活の3重点／「あいさつ」「無言清掃」「時間を守る」

上田市立第五中学校 TEL 22-3076
学校 HP <http://www.school.umic.jp/ueda5/>
〒386-0003 上田市上野4-4-1



PC・スマホ用

生徒会役員選挙 立会演説会・投票

11月20（木）生徒会役員選挙の立会演説会と投票が行われました。学年から選ばれた2名ずつの生徒会長候補、男女の副会長候補による立会演説会では、各候補者が堂々と来年度の五中生徒会に対する自分の抱負と決意を語りました。どの候補者も五中のことを真剣に考え、してくれたものをさらに充実させながら、自分なりに一番大切にしたい取り組み内容について明確に述べていました。いよいよ生徒会を引き継ぐ立場に立った2年生。その真剣な姿が頼もしく感じられました。

演説会後は、上田市選挙管理委員会から記載台、投票箱をお借りし、厳粛なムードの中、投票が行われました。

来年度五中生徒会を背負って立つ
生徒会役員3名が決まりました。

生徒会長 MTさん（2の4）

副会長 FRさん（2の3）

副会長 KKさん（2の4）



選挙管理委員の皆さんは、これまでの教室訪問の運営や選挙の準備片付け、投開票の仕事を責任をもってやり遂げてくれたおかげで、新役員が無事決まりました。

新三役により、生徒会の役員の組閣が行われ、12月18日（木）に行われる生徒総会で発表となり、19日（金）には引き継ぎ会が行われました。

生徒会は学校づくりの主役。生徒会スローガン「繋ぐ～新しい五中～」で目指してきたように、今、五中は「変化」のとき新しい学校づくりで「変化」を進めてきた今年の生徒会。大切なのは、「何を求めて変化していくか」です。

今年の成果を大事にしながら、自分たちの手で新しい伝統を築いていこうとしている二年生。三年生は何を残していくのか。一年生は二年生をどう支えていくのか。それぞれ考えて五中全体が心を繋ぎ、真剣に考え、学校づくりをしていきたいですね。



後期人権同和教育月間 10月15日～11月17日

後期人権教育月間の各学年の取り組みを紹介します。

1学年

・「心のしくみから差別を考えよう」では、人権問題・差別は、私たち一人ひとりの心が生み出してきた偏見によるもので、差別する側の問題であることを学びました。

【生徒の感想】

○偏った観方、決めつけ、思い込みをしてしまうと差別につながる恐れがあることを学びました。他の人に流されず、勇気をもって行動していきたいと思いました。

○自分は何も知らないのに、見た目や噂だけで相手を決めつけるのは良くないと改めて思いました。間違っただけに流されず、相手の本当のことを知っていきたいと感じました。

○正しいかわからない情報に流されず、強い心をもって生活したいです。

○周りに流されるのではなく、「本当に正しい情報なのか？間違っていないのか？」と一度立ち止まって考えることの大切さを学びました。



2学年

・解放令・水平社宣言・全国水平社を中心に、部落解放運動に取り組む人々の歴史や人権とは何かについて学習しました。その学習をもとに、前期に作成した学級人権宣言の条文を実現させるために、具体的にどのようなことができるのかを考えました。

【生徒の感想】

【学級人権宣言を実現させるためにできること】

○自分が注意をする前に、まず自分ができているかどうかをもう一度考えたいと思いました。他の班の意見にあったように、人の心に寄り添うことも大切だと思いました。私のクラスの発言が改善されるように取り組んでいきたいです。

○他の班の意見で、「冷やかされていても笑わない」というのがあって、確かにすごく大事ななと思いました。一緒に笑っていたらその人も同じ立場になってしまうので、笑わず、まじめに注意しようと思いました。

○人に嫌なことをしたり、言ったりしている人がいたら、すぐに止めて、嫌なことをされていた人に、やさしく「大丈夫？」と言って寄り添って話を聞くことを意識してやってみようと思いました。人の個性を大切にして、個性をバカにしている人や、それを見て笑っている人がいたら止めようと思いました。



3学年

「宇宙人がやって来た」や「運命のシュートゲーム」等のアクティビティを体験したり、いろいろなエピソードや資料を読んだりして、結婚差別や就職差別等、様々な差別について

・自分が当たり前にできることや躊躇(ちゅうちょ)なく話せることであっても、それができない人、そうすることに怖さを感じる人がいるかもしれない、という広い視野、考え方をもちることが大切である。



- ・差別は「過去・どこか遠い場所」で起きているのではなく、「現在・身近」に起きていること、そして、今後出会うかもしれないことである。
 - ・正しい知識や情報をもつことで自分や周りの人を守ることができる。
- ということを学び、考えを深めました。

【生徒の感想】

○差別をする人は人の気持ちを考えずに行動するけれど、差別される人の気持ちは本当に苦しいんだなと思いました。それを止めようとしても止めた人が次のターゲットになってしまうかも、と思います。でも悪いことを直すには行動しないとはいけません。一人で抱え込まなくても、大人の人に相談するのも良いと思います。

○昔からの課題や身近な課題など、調べたり学んだりするとどんどん多くのことがわかりました。調べたり教えてもらったりしなければ知らなかった課題もありました。この課題を解決することが大事だと思いますが、まずは多くの人に課題を知ってもらわなければいけないと思います。課題を知り、頭の片隅にでも覚えていれば少しずつ認識が変わっていくのではないかと思います。課題を感じたり、課題を教えたりする機会があれば周りに人に教えていきたいです。

○差別をなくす取り組みや不平等をなくすための取り組みが行われていることは知っていたけれど、自分は差別だと気がついていないことや、他の人の立場から考えないとわからない不平等なことがあること等に気づくことができました。

11月17日(月)には、五中区ブロック教職員人権同和教育研修会があり、多くの先生方に授業を参観していただきました。



それがにんげん
こころのこころ

HP掲載のため

編集しています。

今野敏彦 著書
「人権読本じんげんの詩」より

生徒総会・生徒会新旧役員引継 ～3年生から2年生へ 繋ぐ～



12月18日 第二回生徒総会が行われました。4月からの活動について、成果と課題、次期生徒会に引き継ぐこと、会計の中間報告が報告されました。各委員会の発表に対してたくさんの会員が質問や意見を述べ、役員が応えました。「令和7年度生徒会活動報告」「令和7年度会計中間報告」の議案は、賛成多数で承認されました。

続いて、宮川新会長から新生徒会役員が発表され承認されました。3年生役員から新役員にファイルの引き継ぎがありました。

最後に、金井会長が退任の挨拶で感謝を伝え、3年生役員に大きな拍手が贈られました。

この一年間、体育かんがない中創意工夫しながら、全校生徒の心を繋ぎ、新しい五中をめざして、学校づくりに取り組んでくれた令和7年度生徒会。



新校舎での新たな学校づくりの一步をふみ出し、3年生を中心に築きあげた新たな伝統が、1、2年生の心の中に受け継がれ、五中生徒会がさらに発展することを期待します。

お知らせ

■後期学校評価アンケートへのご協力のお願い

12月8日（月）に tetoru の配信をご覧ください。

今年度の学校生活も残り3ヶ月ほどとなりました。そこで、今年度の反省を来年度につなげていくために、後期も学校評価アンケートを実施いたします。詳細については、PDFファイルをご覧ください。

回答期限は12月19日（金）本日までとなっておりますが、まだの方は、ご回答いただきますように、

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

以下のURLから、直接フォームでご回答いただけます。

<https://forms.gle/RbLXokTWU5JiJook8>

